

# 藤橋の六部堂(大宮市)

ふじはしのろくぶどう

前方の橋が「藤橋」



ここを渡ると「六部堂」がある



正面がさいたま市指定史跡「藤橋の六部堂」



さいたま市指定史跡

## 藤橋の六部堂

昭和五十二年四月十四日指定



▲明治25年頃の藤橋

六部堂は、江戸時代後期、この地に石造の橋を架けた行者・小平次の徳を後世に伝えようと村人たちが建てたお堂です。

昔、この付近には鴨川に架かる橋がなく、土地の人々は川の兩岸に生える藤蔓を編んだつり橋を伝って往来していました。しかし、洪水で橋が流されたり、時には川に落ちて溺れたり、困ったことが多くありました。

江戸時代の寛政五年（一七九三）頃、丹後国（現京都府）宮津生まれの小平次という廻国行者がこの地を訪れた時、何とか丈夫な橋を造って人々の苦難を救いたいと願い、周辺の九十カ村を熱心に寄附を募って歩き、また、自ら石材の手配や架橋工事の指図まで行ったと伝えられています。寛政八年三月、小平次五十三歳の時に、村人の協力のもと長さ約八・五メートル、幅約二・三メートル、高さ約二・五メートルの立派な橋を架けることができました。文化二年（一八〇五）六月、小平次が六十二歳で他界した後も、村人たちはその徳を慕って、小平次の石像を建立し、お堂を建ててこれを祀りました。

現在の六部堂は、当初の場所から西側に移動し建物も再建されたものですが、小平次の業績を称えることには変わりありません。藤橋は、昭和十一年、鴨川の改修に際し、石造からコンクリート製の橋に架け替えられましたが、その石材は保存され、昭和五十二年、地元の人々の尽力により旧藤橋の一部を六部堂内（道路からお堂に向かう石敷の部分）に、幅は元のまま、長さは元の四分の一に還元されました。

平成二十年三月

行者小平次事蹟顕彰保存会  
さいたま市教育委員会



1796年造立の石造供養塔



奥には当時の藤橋の石材が保存されている





## 参考ホームページ

<http://www.city.saitama.jp/www/contents/1044583703331/>

<http://members3.jcom.home.ne.jp/redribon/fujihasi.html>

<http://www.geocities.jp/fukadasoft/bangai5/kuyou/fujihasi/index.html>

